

れんこん産地における大規模経営体の育成

県南農林事務所経営・普及部門

全国有数のれんこん栽培規模を誇る土浦地域において、経営・普及部門ではれんこん栽培の中核的経営体を対象に、農地の集積・集約、作業の省力化、労働力の確保等の経営改善を支援した結果、栽培面積が15haから24haに拡大し、それに伴い販売金額が8千万円から1億円余となり、販売金額1億円の経営体が育成されました。

規模拡大に向けた農地の集積・集約

規模拡大に向けて農地の集積・集約を図るため、経営体に対して、栽培圃場のマップ作成を支援しました。

作業場を中心とした栽培圃場の位置状況の把握により、圃場間の移動が効率的に行えるよう、作業場から半径1.5km以内への圃場の集積・集約を進め、平成30年比で160%まで栽培面積が拡大しました。

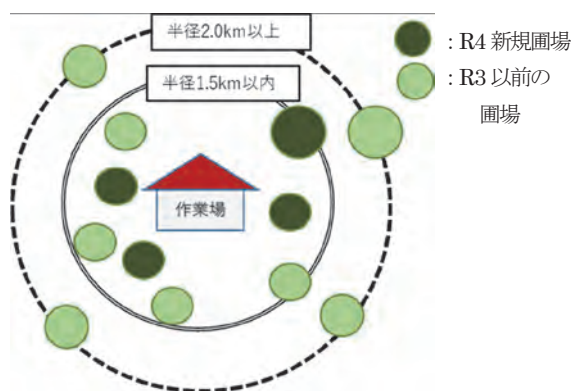


図1 圃場マップと圃場の集積・集約のイメージ

スマート農機の導入による省力化

栽培管理作業の省力化やスマート農業の推進を図るために、管内レンコン生産者を集め実演会を開催し、ドローンの活用方法や効果の周知等の情報提供を行いました。

これにより、経営体では、施肥や薬剤散布作業の省力化のためにドローン活用を検証したところ、10a当たり作業時間が80分短縮できました。

なお、経営体ではドローンを導入により生じた余剰労働力は、規模拡大した圃場の整備等に活用しました。



写真1 ドローンによる肥料散布の実演会

労働力の確保、出荷調製作業の効率化

規模拡大により栽培管理作業など増加した労働力の確保のため、経営体に対して栽培面積当たりの適正な労働力の提案や、労働力確保のため農業求人情報サイト等への登録、掲載を支援した結果、10名程度の応募の中、3名の雇用にいたりました。

また、出荷箱数不足を解消するため、出荷調製作業の制限要因である「れんこん洗浄機」を更新するにあたり、効果的な機種選定を支援しました。その結果、1日当たりの出荷箱数に応じた洗浄機の導入につながり、出荷箱数は25%増加しました。



図3 1日あたりの出荷箱数の変化